

稲作情報 No.10

〔7月10日水稲調査結果、大豆培土〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html>

台風8号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

冠水した場合は一刻も早い排水を図りましょう。冠水した稲はいもち病が発生しやすいので、排水後直ちに防除しましょう。
 大豆圃場では暗渠排水があればフタを開ける、枕地の培土が水をせき止めている場合、その部分を切り通すなど速やかに排水しましょう。
 （詳細は<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021037/taifutaisaku/taifu8.html>を参照）

水稲

【農業試験場水稲気象対策試験のコシヒカリの生育】(7月10日)



圃場の外観
適期田植えコシヒカリ(5/20植え)



稲株の拡大(茎数平均27.1本/株)



圃場の外観



稲株の拡大(茎数706本/㎡、8.5本/株)
直播コシヒカリ(5/7播種)

水稲気象対策試験は、気象条件が水稲の生育に与えた影響を比較するため、毎年同一の栽培管理を行っています。

- コシヒカリは幼穂形成期を迎え始めており平年より2日程度早まる見込み。草丈は短いですが茎数は平年を上回っています。
- 特に直播コシヒカリの茎数は過剰となっています。倒伏軽減剤の散布を検討しましょう。(倒伏軽減対策の判断基準は7ページ参照)
- 農試のハナエチゼン(5月2日植え)は走り穂が見えており、7月15日頃に出穂期を迎える見込み(平年より5日程度早く昨年並み)。

【今後の栽培管理】

品種	今後の管理																		
適期田植え コシヒカリ 直播 コシヒカリ	<p>【倒伏軽減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に直播が茎数過剰で「草丈×茎数×葉色」値が基準を上回り倒伏しやすい稲体になっている。（6ページ参照） ・幼穂形成期を迎えたら生育状況を確認して穂肥の施用（3ページ参照）や倒伏軽減対策の実施を検討する。（7ページ参照） <p>【水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植は幼穂形成期を迎え始めている。農試では7月11日に幼穂形成期を迎えており、平年より2日早く昨年より1日早い。 ・幼穂形成期以降は、乳白や胴割粒の発生を防ぐための間断通水を収穫直前まで行う。 <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分施体系の施用基準 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th colspan="3">穂肥1回目の目安</th> <th colspan="3">N施肥量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>幼穂長</th> <th>出穂前</th> <th>葉色</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>(3回目)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10mm</td> <td>18日</td> <td>3.5</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>(1)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・幼穂10mmを確認して穂肥を施用する。（次ページの穂肥目安板「穂肥くん」参照。）（3回目は低地力、乾田のみ） ・2回目は1回目の7日後に2回目穂肥を窒素成分で2kg/10a施肥する。 ・地力が低いなど葉色を維持するのが難しい所では、2回目の1週間後に3回目の穂肥を施用する。 	穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)			幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)	10mm	18日	3.5	2	2	(1)
穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)																
幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)														
10mm	18日	3.5	2	2	(1)														
移植 ハナエチゼン	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 																		
移植 あきさかり	<p>【中干し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中干しを継続する。幼穂形成期を迎えたら間断通水に切り替える。 																		
移植 イクヒカリ	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 ・入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目は1回目の10日後に2回目穂肥を窒素成分で2kg/10a施肥する。 																		

穂肥の目安と
施肥基準

品種	穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)		
	幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)
コシヒカリ	10mm	18日	3.5	2	2	(1)
イクヒカリ	2mm	23日	4.0~4.3	2	2	(1)
あきさかり	2mm	23日	4.0	2	2	(1)

(3回目)は低地力、乾田のみ

【コシヒカリを倒さずに高品質と収量を確保する穂肥目安板 「穂肥くん」】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

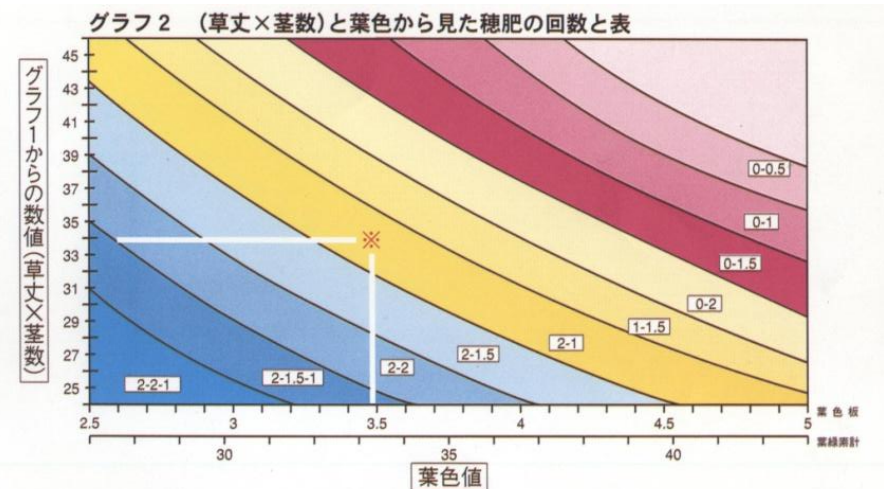
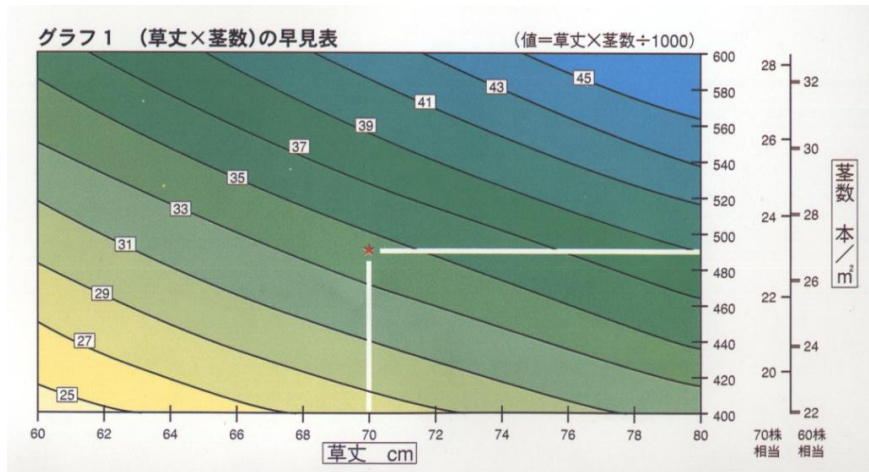
・草丈(cm)、茎数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。

2. 早見表グラフ1で草丈×茎数の数値を求める

・グラフ1上で草丈と茎数の数値の交差点(★)から草丈×茎数÷1000の値を求めます。
(グラフ1には草丈70cm、茎数490本/m²を例示しています。)

3. 早見表グラフ2でグラフ1と葉色から穂肥の回数と量の目安を求める

・グラフ2上でグラフ1の値(★)と葉色の数値の交差点(※)により穂肥の回数と量の目安を求めます。
(グラフ2にはグラフ1からの値34、葉色3.5を例示しています。)



穂肥管理判定表

葉緑素計 草丈×茎数×葉色値 (×10,000)		葉色板 草丈×茎数×葉色値 (×1,000)		施肥量管理区分(Nkg/10a)			倒伏の 可能性
1回	2回	3回	1回	2回	3回		
~ 7.7	~ 7.7	2.0	2.0	1.0	小		
7.7 ~ 8.8	7.7 ~ 8.9	2.0	1.5	1.0	小		
8.8 ~ 9.8	8.9 ~ 10.2	2.0	2.0	—	小		
9.8 ~ 10.9	10.2 ~ 11.5	2.0	1.5	—	小		
10.9 ~ 12.1	11.5 ~ 12.8	2.0	1.0	—	中		
12.1 ~ 13.2	12.8 ~ 14.2	1.0	1.5	—	中		
13.2 ~ 14.6	14.2 ~ 15.8	—	2.0	—	中		
14.6 ~ 16.3	15.8 ~ 17.7	—	1.5	—	大		
16.3 ~ 17.8	17.7 ~ 19.6	—	1.0	—	大		
17.8 ~ 19.0	19.6 ~ 20.9	—	0.5	—	大		

※上位第3帯が43cm以上の場合は倒伏軽減剤の利用を考える

・地元の農林総合事務所やJAと相談して地域の栽培環境等を勘案して判断する。
・幼穂形成期頃の「草丈(cm)×茎数(本/m²)×葉色(葉色板)」値16万以上、直播で12万以上)場合は倒伏軽減対策を実施する。

【病害虫等の発生状況と対策】

病害虫	発生状況と対策																																																																																																														
<p>葉いもち</p>	<p>【発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BLASTAM（ブラスタム）によるいもち病の感染好適条件出現状況（●感染好適条件日 ○準好適条件日） ・平成26年度農作物病害虫発生予察予報第5号では、平年より少なく前年より多い。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防粒剤の苗箱施薬や本田散布を行っていないもの、常発地、適期田植えや直播栽培、生育が旺盛で葉色が濃く葉が垂れているもの、などで特に注意して観察する。 ・圃場を見回って、発病を見つけたら治療効果のある薬剤を散布し蔓延を防ぐ。 <table border="1" data-bbox="1607 208 1922 472"> <thead> <tr> <th></th> <th>7/01</th> <th>7/02</th> <th>7/03</th> <th>7/04</th> <th>7/05</th> <th>7/06</th> <th>7/07</th> <th>7/08</th> <th>7/09</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>香江</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>越穂</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>勝山</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大野</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>今庄</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>敦賀</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>美浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小浜</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>●</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		7/01	7/02	7/03	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	三国	-	-	-	-	-	-	●	-	-	香江	-	-	-	-	-	-	-	●	-	越穂	-	-	-	-	●	-	●	-	-	福井	-	-	-	-	-	-	●	●	○	勝山	-	-	-	-	-	●	-	-	-	大野	-	-	●	-	●	●	●	-	-	今庄	-	-	-	-	●	-	●	-	-	敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	美浜	-	-	-	-	●	-	●	-	-	小浜	-	-	-	-	-	●	-	-	-
	7/01	7/02	7/03	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09																																																																																																						
三国	-	-	-	-	-	-	●	-	-																																																																																																						
香江	-	-	-	-	-	-	-	●	-																																																																																																						
越穂	-	-	-	-	●	-	●	-	-																																																																																																						
福井	-	-	-	-	-	-	●	●	○																																																																																																						
勝山	-	-	-	-	-	●	-	-	-																																																																																																						
大野	-	-	●	-	●	●	●	-	-																																																																																																						
今庄	-	-	-	-	●	-	●	-	-																																																																																																						
敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																						
美浜	-	-	-	-	●	-	●	-	-																																																																																																						
小浜	-	-	-	-	-	●	-	-	-																																																																																																						
<p>紋枯病</p>	<p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垂直進展初期は平年並み。早生で7月第3半旬、中晩生で7月第5半旬。 ・8月上旬までに出穂する圃場では穂ばらみ期～出穂直前、8月中旬以降に出穂する圃場では7月下旬に薬剤を散布する。 ・穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。 ・紋枯病が発生した圃場では、菌核が残っており次作の伝染源となる。前年に発生があった圃場では、必ず防除を行う。 ・早生（ハナエチゼン）、短稈品種（あきさかり、イクヒカリ）では被害が大きくなりやすいので注意する。 																																																																																																														
<p>カメムシ類</p>	<p>【発生状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月1日にカメムシ多発注意報が発令された。 ・水田周辺雑草地でのすくいとり調査では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等が平年の1.5倍。 ・大麦跡のそば作付け予定地の雑草にも多い。雑草管理を徹底する。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬で早生の穂揃期と一致すると見込まれる。 ・粉剤・液剤の防除は穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後）と糊熟初期（出穂10～14日後）の2回行う。 ・詳細は、平成26年農作物病害虫発生予察注意報第2号（http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo_d/fil/tyuuihou2.pdf）参照。 																																																																																																														
<p>その他</p>	<p>【ニカメイチュウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生量は平年、前年より多い。越冬世代の発生が早かったため第1世代の発生も早くなると予想される。 ・発生量が多いところでは7月6半旬から8月1半旬に防除を行う。 ・前年発生が多かった圃場、窒素施用量が多く葉色が濃い圃場、直播等熟期が遅い圃場、イクヒカリやもち品種で注意する。 <p>【イネツトムシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬、被害程度は少発、局中発、発生量は平年、前年より多いと予測されている。 <p>【イネアオムシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2世代幼虫加害初期は7月5半旬頃、被害程度は少発、局中発、平年より多く前年並みと予測されている。 ・過繁茂のものや葉色の濃いもの、山間地など風通しの悪い所で被害が大きくなるので注意が必要である。 																																																																																																														

【カメムシ防除による斑点米防止】

- 7月1日にカメムシ多発注意報が発令されました。水田周辺雑草地でのすくいとり調査ではカメムシの発生量が平年の1.5倍。
- 斑点米の発生が毎年多い地域では、品種ごとに本田3回散布で斑点米カメムシ防除を行いましょう。

品種別の防除時期の目安(平年値)

品種	出穂期	成熟期	防除時期の目安		
			1回目 穂揃期	2回目 糊熟初期	3回目 収穫14~7日前
ハナエチゼン (5月2日植)	7月20日	8月17日	7月27日	8月4日	8月10日
コシヒカリ (5月20日植)	8月3日	9月6日	8月10日	8月20日	8月30日
あきさかり (5月15日植)	8月8日	9月16日	8月15日	8月25日	9月9日

上表は、ハナエチゼンとコシヒカリの出穂期、成熟期は農業試験場、あきさかりはJA花咲ふくい坂井農場の平年値を基にした目安である。出穂期が早まればそれに合わせ防除時期も早まる。

- 成虫の本田侵入最盛は7月5半旬(ハナエチゼンの穂揃期)、被害程度は少発、局多発、発生量は平年、前年より多い。
- 畦畔等の除草を終えていない所は早急に草刈りを実施する。ただし、出穂期を迎えてからはカメムシ類を水田内に追い込むので行わない。
- 毎年、斑点米の発生が多い地域や牧草地・大麦跡雑草地などのカメムシ発生源が隣接する圃場では、必ず3回防除を実施する。
- 農薬散布時期は、品種ごとの生育時期に合わせて実施する。コシヒカリに合わせてハナエチゼンの防除を行っても斑点米は防止できない。
- 農薬使用に当たっては、使用方法を厳守するとともに、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

カメムシ発生量が昨年より多い中で、昨年と同じ対応では斑点米が増えることは必然です。
3回防除など新たなカメムシ対策を地域で工夫して実施していきましょう。
猛暑の中の作業で大変ですが、良食味米生産の最後の仕上げに頑張りましょう！

【生育調査結果】

調査日：平成26年7月10日

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり		
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地
		移植 5/2	移植 5/1	移植 5/1	移植 5/20	直播 5/7	移植 5/15	直播 5/8	移植 5/16	直播 5/2	移植 5/20	直播 5/5	移植 5/2	移植 5/15	移植 5/11
草丈 (cm)	本年	79.1	69.5	67.2	63.8	67.0	68.3	67.0	64.8	63.6	67.2	68.8	68.4	61.4	55.3
	平年	74.4	74.2	71.4	71.1	73.1	73.1	66.7	72.3	71.7	68.5	74.9	69.4	66.8	66.9
茎数 (本/株) (本/m)	本年	32.5 676	25.0 455	25.5 452	27.1 564	706	22.4 408	600	27.0 479	583	31.8 532	510	35.6 740	27.9 508	34.9 525
	平年	25.3 526	24.0 453	25.6 479	21.6 449	594	22.2 416	534	23.4 425	517	23.1 435	517	28.7 597	26.8 509	25.7 441
葉齢 (枚)	本年	12.5	12.6	12.4	10.8	11.0	11.1	10.1	10.9	10.5	10.7	10.5	12.2	10.9	10.8
	平年	12.6	12.5	12.4	11.2	10.5	11.3	10.6	11.0	10.6	11.1	10.6	12.2	11.1	12.3
葉色 (葉色 板)	本年	4.8	4.2	4.4	3.8	4.1	3.9	4.1	3.8	4.4	4.4	3.8	4.6	4.5	4.4
	平年	4.7	5.1	4.3	4.0	4.1	3.9	4.4	3.9	4.1	4.2	3.7	4.4	4.4	4.8
幼穂 形成期	本年	6/25	6/25	6/25	7/11								7/10		
	平年	6/28	6/28	6/28	7/13	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	7/12	7/15	7/10	7/14	7/10
出穂期	本年														
	平年	7/20	7/17	7/18	8/3	8/8	8/2	8/8	8/1	8/4	8/1	8/4	8/3	8/8	8/1
草丈× 茎数× 葉色	本年				136,663	193,938	108,599	164,820	119,120	164,225	155,221	133,334			
	平年				127,696	178,028	118,853	152,074	118,715	151,841	121,899	144,282			

草丈×茎数×葉色の値から倒伏軽減剤の散布を検討する。詳細は次ページ。

【コシヒカリの倒伏軽減対策】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

- 草丈(cm)、莖数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。
- 草丈×莖数×葉色の値を算出します。

2. 止葉から数えて3番目の葉の長さを計測します

- 幼穂形成期の時、出てくる葉は止葉から数えて2番目の葉の場合が多い。したがって幼穂形成期において展開が完了している最も新しい葉が3番目の葉とみてよい。
- この葉の長さを計測します。

3. 基準値と比較する

- 草丈×莖数×葉色の基準値
移植コシヒカリ 160,000
直播コシヒカリ 120,000(移植より根が浅い、莖1本当たりの乾物重が小さいため倒伏しやすい)
- 第3葉の長さの基準値 45cm
- 基準値を超える場合は、倒伏程度が大きくなると予測されるので、倒伏軽減剤を使用します。

ロミカ粒剤	出穂25～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない、黒ボク土壌では効果が劣る場合がある
スマレクト粒剤	出穂15～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない
ビビフル粉剤DL	出穂10～5日前	3～4kg/10a	散布

【高温時の水不足対策】

1 漏水の有無の確認

- 高温、多照が続き、田面や稲体からの蒸発や蒸散作用が大きいため、1日1回水回りをして、畦畔や水尻部からの漏水がないよう止水確認を行う。

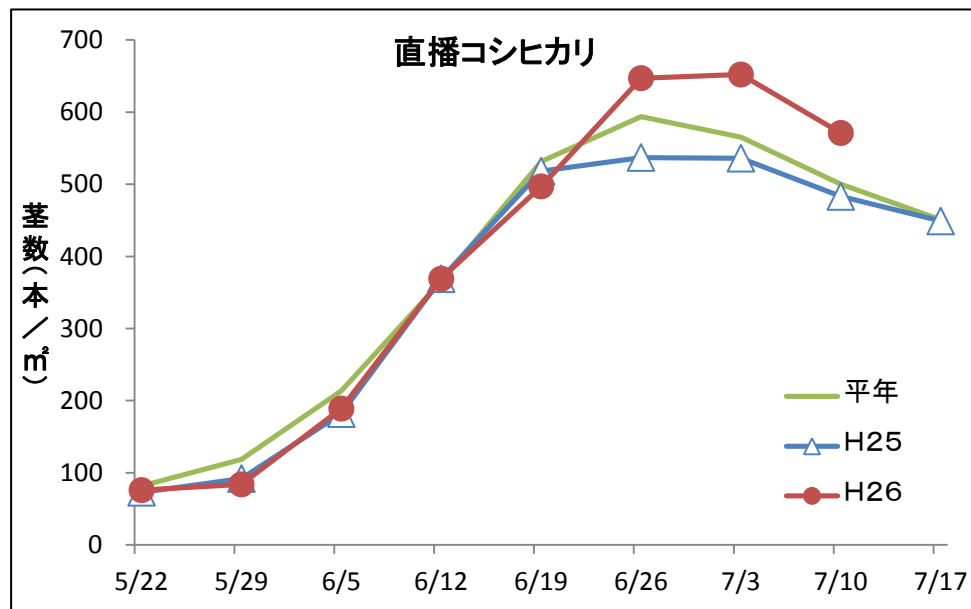
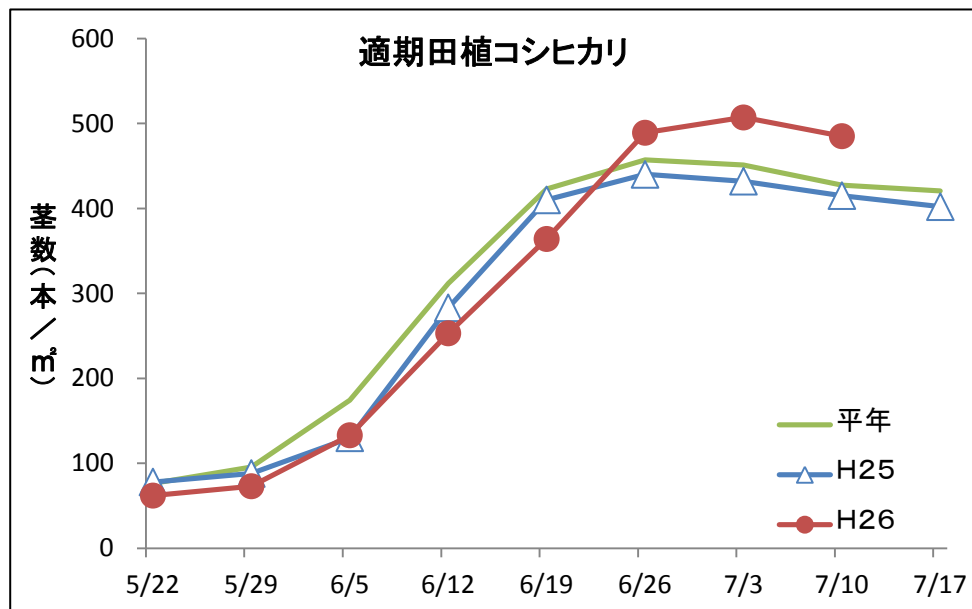
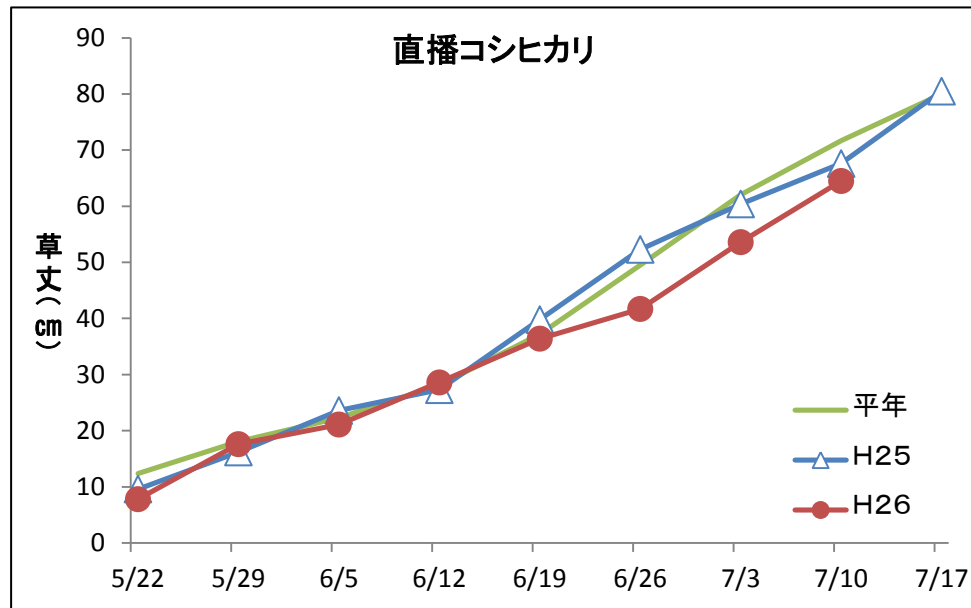
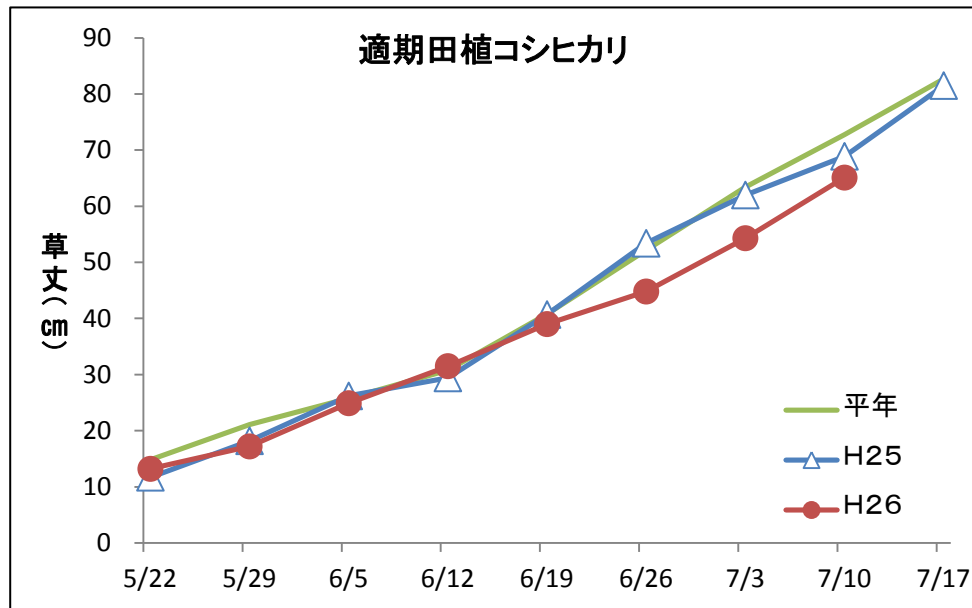
2 計画配水と水源の確保

- 水不足が懸念される場合には、地域や集落で用水系統や団地毎に入水時間を申し合わせるなど、計画的に用水の供給を行う。
- 水不足が深刻なところでは排水路からのポンプアップを行う。湛水深は極力浅水とし、節水栽培に努める。

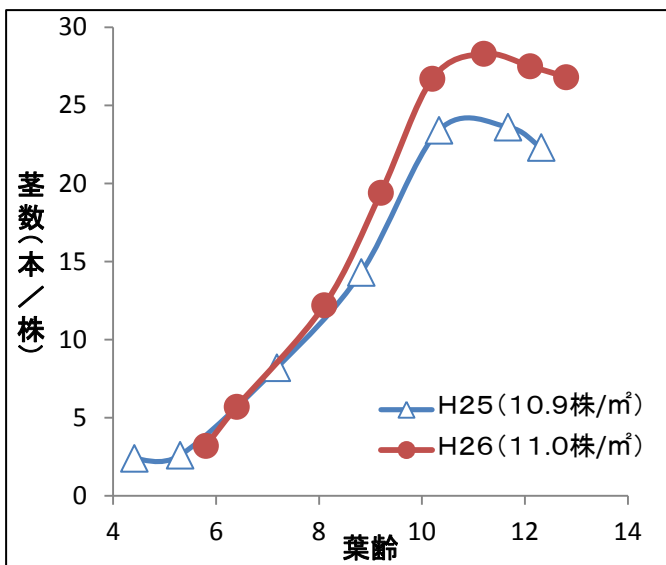
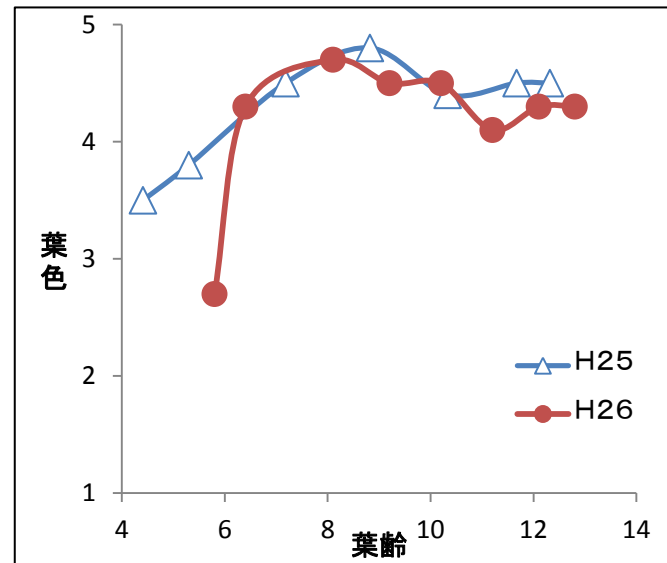
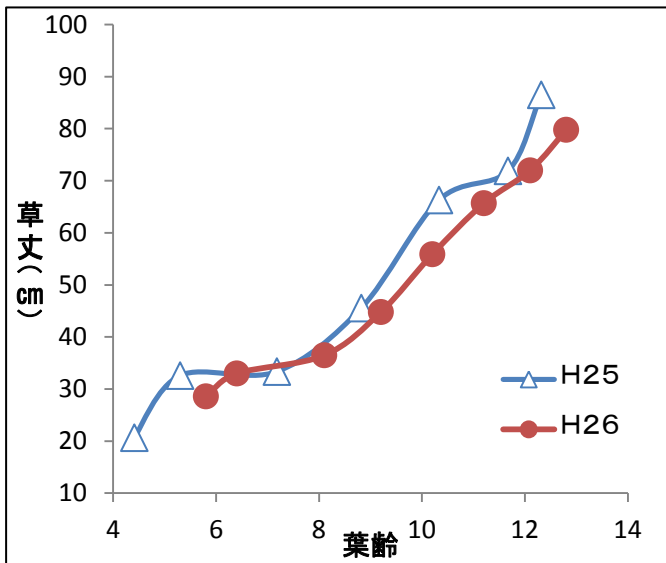
3 塩害対策

- 九頭竜川の下流域や北潟湖周辺等で、用水に塩水が混入する恐れのある地帯では常に用水の塩分濃度をチェックし、塩分濃度が700ppm以上となった場合には、集水口を水面近くに移動する。塩分の許容限界はECメーターで1.0mS/cm以下で、通常塩素イオンが濃度500ppm以下の水を使用していれば障害の発生は少ない。

【コシヒカリ生育経過】



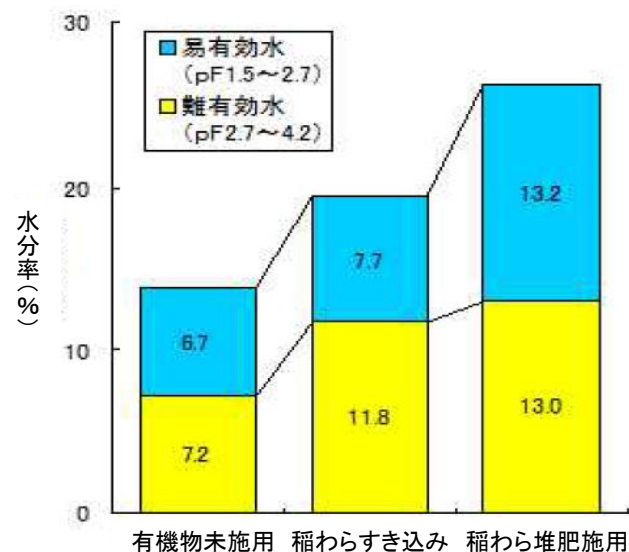
【有機肥料コンヒカリ生育経過】 福井市の栽培事例



調査点: 福井市深見町
 苗: みのる式、育苗日数30日
 施肥: 米ぬかと油粕を主体としたボカシ肥料、発酵鶏ふん、シリカ21など
 この水田では除草剤を1回使用

田んぼの保水力を高めよう

- 最近の天候は気温や降水量の変動が大きく、適正な栽培管理が難しくなっている。農業用水が不足しやすい地域はもちろん、そうでない地域でも、真夏の高温乾燥時の稲体の消耗は大きい。
- 稲わらなどの有機物をすき込みことにより水田土壌の保水力が高まる。
- これにより、干ばつ、フェーン現象などの気象変動に対する稲の抵抗力が大きくなり、収量・品質の安定につながる。
- 稲わらは燃やさず秋にすき込みましょう。

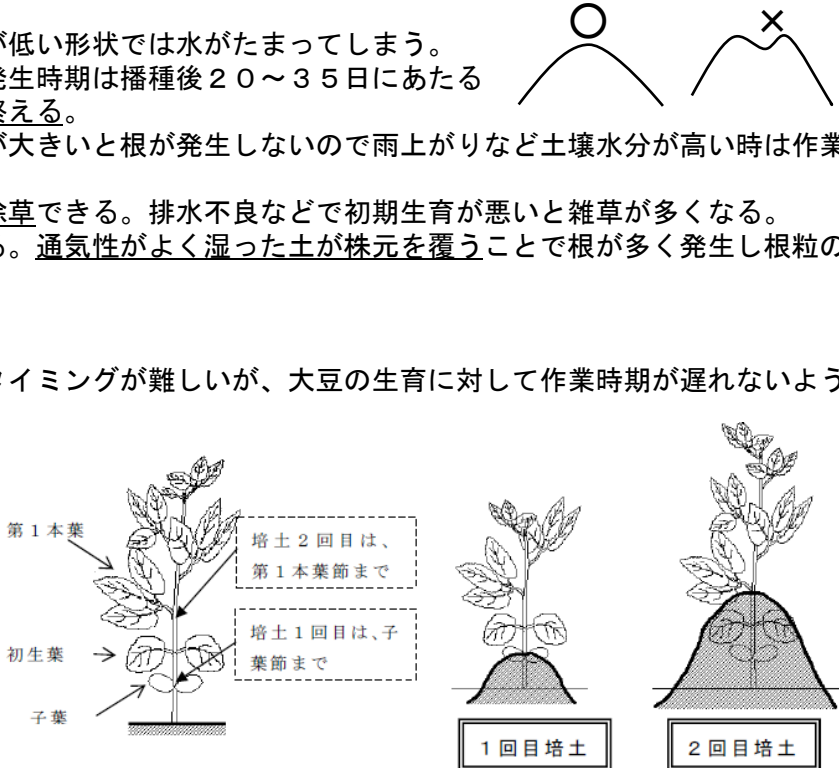



(新潟農総研)

秋の田起こしでおいしい米づくりを！

秋の田起こし運動を本年から始めます。早めに稲わらをすき込んでわらの腐熟を促進しましょう。

大豆

作業	作業の注意点									
<p>培土・中耕</p>	<p>【培土・中耕の効果】</p> <p>①畝立てをして排水性を向上する。山の形が重要で株元が低い形状では水がたまってしまう。</p> <p>②地中に入った莖から新根（不定根）が出る。この根の発生時期は播種後20～35日にあたる6月下旬から7月中旬であり、7月中旬までに培土を終える。 株元を土が覆うことで根を十分発生させられる。土塊が大きいと根が発生しないので雨上がりなど土壌水分が高い時は作業しない。</p> <p>③播種後の除草剤の効果は約1か月で消えるので中耕で除草できる。排水不良などで初期生育が悪いと雑草が多くなる。</p> <p>④土が膨軟になって通気性がよくなり根粒の活性が高まる。通気性がよく湿った土が株元を覆うことで根が多く発生し根粒の発生や活性化につながる。</p> <p>⑤株元が支持されて倒伏を軽減する。</p> <p>【培土・中耕の時期と程度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回実施を基本とする。梅雨時期の作業となり実施のタイミングが難しいが、大豆の生育に対して作業時期が遅れないように留意する。 <table border="1" data-bbox="401 725 1050 929"> <thead> <tr> <th></th> <th>時期</th> <th>程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>6月下旬 本葉3～4葉期</td> <td>子葉が隠れる程度</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>7月上旬 本葉5～6葉期</td> <td>本葉第1葉節まで</td> </tr> </tbody> </table> 		時期	程度	1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度	2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで
	時期	程度								
1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度								
2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで								
<p>排水対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場周りの枕地部分で培土を行うと額縁明渠へのスムーズな排水を妨げる。 ・培土後に枕地の畝を数箇所切って排水性を高める。（右の画像参照）台風の影響で冠水した場合や停滞水がある場合は速やかに実施する。高温乾燥期の畝間かん水の実施にも役立つ。 ・排水不良や播種期が遅く生育量が小さい場合は、培土時に窒素で5kg/10a程度の追肥をする。 									

作業	作業の注意点			
除草	【生育期に使用できる除草剤】			
	使用時期		除草剤名	10a当たり使用量
	茎葉処理イネ科雑草3～5葉期	収穫60日前まで	ワンサイドP乳剤	75～100ml
	茎葉処理イネ科雑草3～8葉期	収穫30日前まで	ナブ乳剤	150～200ml(イネ科雑草3～5葉期)
				200ml(イネ科雑草6～8葉期)
	茎葉処理イネ科雑草3～10葉期	収穫30日前まで	ポルトフロアブル	200～300ml
	茎葉処理 (イネ科を除く、雑草生育初期～6葉期)	収穫45日前まで 大豆2葉期～開花前まで	大豆バサグラン液剤	100～150ml
	雑草茎葉および土壌処理 (雑草草丈15cm以下)	収穫30日前まで 大豆3葉期以降	ロロックス水和剤	100～200g
	畝間処理(雑草茎葉処理)	収穫28日前まで	バスタ液剤	300～500ml
	畝間処理 (雑草茎葉処理、雑草の草丈30cm以下)	収穫3日前まで	プリグロックスL	600～1000ml
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆バサグラン液剤は、あやこがねに薬害が強く出ることがあるため使用を避ける。 ・株間処理剤(雑草茎葉および土壌散布)として、ロロックス水和剤が使用可能。 ・狭畦密植無培土栽培は大豆が条間を早く覆って抑草するのがねらいだが、排水不良等により大豆の初期生育が不足すると雑草が多発するので、除草剤を適切に使用する。 ・除草剤の使用にあたっては、使用基準(使用時期、使用量、成分ごとの使用回数、散布方法、水管理方法等)を必ず守る。 				

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 →稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

NO	地名名	品種	栽培方法	地域区分
4	高山一畑庄	ハナエチゼン	移植	高平中
7	あわのこ伊井	ハナエチゼン	移植	低平中
45	笹井農圃-川上	ハナエチゼン	移植	低平中
54	笹井農圃-中ノ瀬町	コヒカリ	移植	低平中
56	福井一畑庄	ハナエチゼン	移植	高平中
110	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	低平中
112	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	低平中
58	福井農圃-高庄	あきさかり	直播	低平中
113	福井農圃-直産	コヒカリ	直播	低平中
70	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	高平中
71	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	高平中
72	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	高平中
73	津島二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	高平中
74	津島二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	低平中
75	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	低平中
86	福井二下直農圃(直)	コヒカリ	直播	高平中
88	福井二下直農圃(直)	あきさかり	移植	高平中
116	丸岡一畑庄	ハナエチゼン	移植	低平中

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

【天気予報】

7月11日5時発表

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

日付	11 金	12 土	13 日	14 月	15 火	16 水	17 木
福井県	曇のち時々晴 ☁☀	晴 ☀	晴時々曇 ☀☁	曇 ☁	曇一時雨 ☁☔	曇一時雨 ☁☔	曇 ☁
降水確率(%)	~30/20/20	20/0/10/10	20	40	50	50	40
信頼度	/	/	A	C	C	C	C
最高(°C)	28	34	(30~36)	(29~34)	(28~33)	(28~34)	(29~35)
最低(°C)	/	21	(22~25)	(22~25)	(24~25)	(24~25)	(22~25)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス